



6



1



8



7



3



2



9



5



4

6\_「5.5cmミニこけし55本」を1セットに10セットを限定販売 7\_山崎パニラさんと白石戦國武將隊「奥州片倉組」が駆け付け会場全体がにぎわった 8\_4月22日から並んでいた新潟県上越市の山川洋一さんに風間市長から賞状とこけしが贈呈 9\_人気を集めた甲冑試着コーナー

1\_3日間で約4万2千人が来場 2\_内閣総理大臣賞を受賞した阿保六知秀さん 3\_山崎パニラ賞を受賞した児童たち 4\_たくさんの親子連れなどでにぎわったこけし絵付けコーナー 5\_第15回こけし写真コンクール

# 第55回全日本こけしコンクール こけしを重ねて

こけしのぬくもりを感じ  
仙南地域の味覚を味わおう

5月3日から5日までの3日間、「第55回全日本こけしコンクール」がホワイトキューブで開催された。本年は、「復興」から「発展」への思いを込めて昨年に引き続き、コンクールを3日間に拡大。県内外から約4万2千人が会場に訪れた。

今回のコンクールには、伝統、新型、創作、木地玩具、応用木製品5部門に全国から179人の工人が880点を出品。4月26日、元日本玩具協会専務理事の岡野泰三さんなど審査員18人が、こけしの表情やデザイン、創造性などを審査した。最高賞となる内閣総理大臣賞には、阿保六知秀さん(青森県黒石市)の津軽系こけし「くびれダルマ絵10号」が初受賞。審査員は、阿保さんの作品を「ねぶた絵を取り入れ、豊かな地域色を表出。頭部と胴体と同じ材料を用いて仕上げた一本造りで、曲線が美しくバランスも良く、魅力的作

品」と評した。5月1日に行われた授賞式で阿保さんは、「何度も挑戦し、苦しい思いをしてきただけに感激でいっぱい。師や兄弟弟子、愛好家の皆さん、こけしに打ち込むことを応援してくれた妻に心からお礼を申し上げたい。これを新たな出発とし、伝統こけしの文化の発展と継承、後継者の育成に取り組みみたい」と、受賞者を代表して謝辞を述べた。また、昨年から創設されたすまいる大使の山崎パニラさんが、市内小学生が絵付けたこけしを審査する「山崎パニラ賞」の最優秀賞には、深谷小6年の村上快くん、優秀賞には、白石第二小6年の数又裕香さんと、越河小6年の大野梨南さんが選ばれた。会場では、3日間にわたり多彩なイベントが開催された。会場には約1万本のこけしが集結。恒例の工人による系統別実演販売には、多くの人たちが訪れ工人との交流を楽しんだ。さらに、仙南地域の特産品を集めた会場産品まつりやこけし絵付け体験、甲冑試着コーナーなど、多彩なイベントで白石をPR。会場を訪れた人たちは、こけしのぬくもりを感じながら、仙南地域の味覚を味わうなど、春の祭典を楽しんでいた。